

経営比較分析表（令和6年度決算）

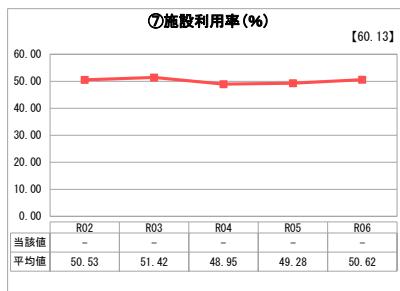
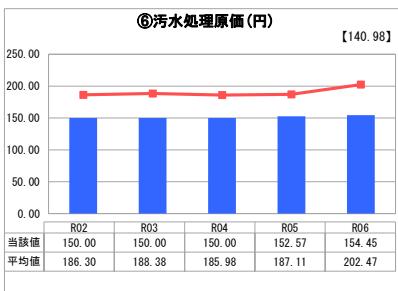
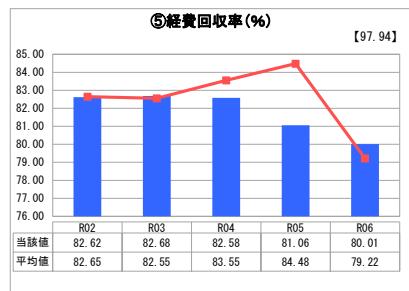
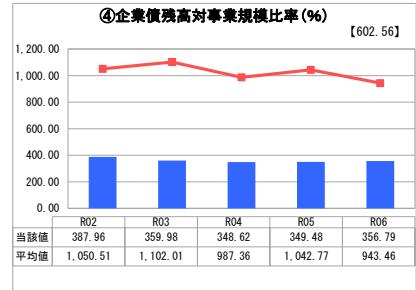
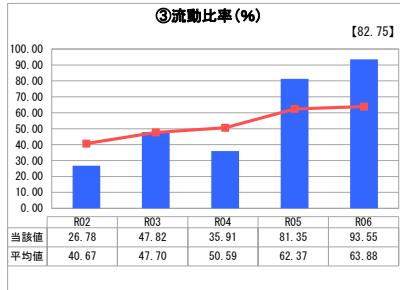
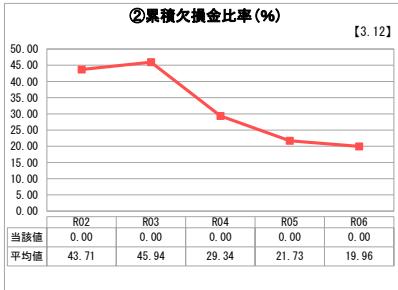
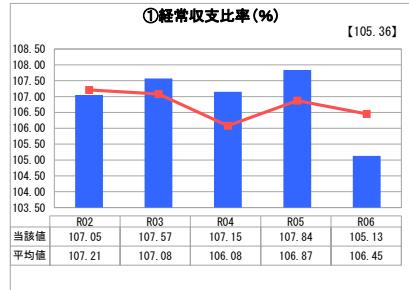
群馬県 みどり市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.20	30.55	78.39	2,310

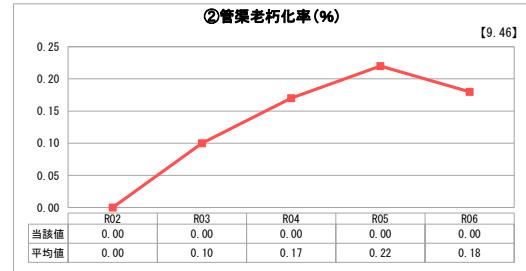
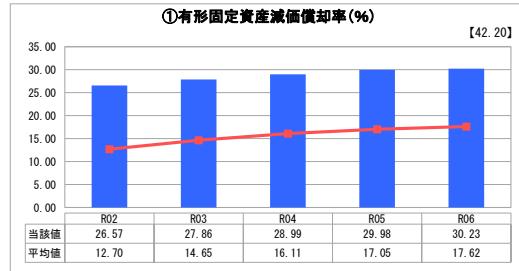
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,470	208.42	232.56
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
14,750	4.90	3,010.20

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



* 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

全体総括

本市の下水道事業は、令和2年度に地方公営企業法を一部適用して企業会計へ移行し、独立採算を原則とした経営が求められているが、使用料収入では貰いきれず、一般会計からの繰入金により運営が成り立っている状況である。今後、未普及地域への整備により維持管理費の増加や管渠等の老朽化による不明水の流入等も懸念されることから、TVカメラ調査等を実施し、適切に維持管理を行う必要がある。

- ①経常収支比率は、100%を越えて黒字となっているが、電気料の高騰や物価上昇による維持管理費の増加により、使用料収入だけでは貰いきれない状況が続いている。一般会計からの繰入金(基準外)を前提としているため、使用料収入の確保と経費削減を図る必要がある。
 - ②営業収益に対する累積欠損金は発生していない。
 - ③流動比率について、前年より12.2ポイント増加したが、主な要因は雨水事業の管渠埋設工事に係る未払金が多くその分現金が増加したためである。なお、流動比率は依然として100%を下回っているが、現金・預金残高は毎年増加している。資金不足に陥らないよう引き続き計画的な起債借入等に努めていく。
 - ④企業債残高対事業規模比率について、類似団体平均値よりも低い状況であるが、本市は現在も未普及地域の整備を進めしており、今後も企業債残高は増加する見込みであることから、使用料収入の増加に努める必要がある。
 - ⑤・⑥汚水処理原価は類似団体平均値よりも低いものの、経費回収率については類似団体平均値を上回っている。下水道への接続率の向上とともに、使用料単価についても増加を図る必要がある。
 - ⑦施設利用率について、本市の公共下水道は県流域下水道に接続しているため、自管理の施設はない。
 - ⑧水洗化率について、類似団体平均値を下回っているため、今後未普及地域の整備を進め、使用料収入の増加に努める必要がある。
2. 老朽化の状況について
 - ①有形固定資産減価償却率について、現在も未普及地域の整備を行っているため、新たな資産が増えていていることから低率となっているが、今後老朽化資産の増加を踏まえて、計画的な更新を行う必要がある。
 - ②管渠老朽化率について、現時点で耐用年数を超えた管渠はないが、一定期間を経過した後に増加するため、計画的に更新を実施していく必要がある。
 - ③管渠改善率については、耐用年数に満たない管渠であっても、ひび割れ等による不明水の流入等も懸念されることから、TVカメラ調査等を実施し、適切に維持管理を行う必要がある。